

彦名通信

2020

12

vol.202

COMMUNICATION MAGAZINE NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), YONAGO COLLEGE



ロボコンCチーム(中国地区大会優勝)



高専祭(ハロウィンファッションショー)

ロボコンAチーム

ロボコンBチーム

Index

学校見学会…………… 2

ロボコン中国地区大会…………… 3～4

部活動報告…………… 4

高専祭…………… 5

クラス便り

2年生オープンファクトリー他 …… 6～8

3年生工場見学他 …… 9～11

4年生インターンシップ …… 12～14

中興大学との共同研究…………… 15

電子制御工学科棟改修…………… 15

卒業生は今(vol.23) …… 16

オンラインオープンキャンパスと学校見学会の開催について

教務主事 稲田 祐二
広報室長 竹内 彰継

中学生や保護者の方に本校を知っていただく機会として、毎年オープンキャンパスを実施してきました。今年度は8月8日、9日に実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の措置として、一旦は9月19日～21日に延期を決定していました。しかし、松江市内における新型コロナウイルス感染症のクラスター発生を受けて最終的には中止としました。

ただ、来年度本校は学科再編を行います。そこで、オープンキャンパスの代替え措置として、本校HP上にオンラインオープンキャンパスを開設し、学生が登場する動画や校内の360°画像を多用して学校の紹介を行い、来年度の学科再編も説明しました。さらに、10月には3週にわたって週末に学校見学会を開催し、実際に各コースを見学していただけるようにしました。その結果、幸いにして多くの中学生および保護者の方々に来校していただくことができ、アンケートの結果満足度も100%となりました。



学校概要・学科再編の紹介



機械システムコースの見学



電気電子コースの見学



情報システムコースの見学



化学・バイオコースの見学



建築デザインコースの見学

高専ロボコン2020 中国地区大会 結果報告

今年度のロボコンについて

学生主事補 原田 篤

『新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年はいくまでの高専ロボコンとはまったく違う形式の大会を行います。会場に集まることはせずに、皆さんの自宅や学校からロボットのパフォーマンスを披露してもらう、『オンラインロボコン』です。』

上記は今年度のロボコンのルールブックの冒頭に書かれていた文章です。また、今年度のロボコンは明確な競技ルールがなく、『だれかをハッピーにするロボットを作ってキラリ輝くパフォーマンス』を如何に実現するかが問われるアイデア重視のロボコンでした。

このように、例年とはまったく勝手が違うだけでなく、作業時間も満身に取れない中、本校は3チームが出場し、その全てが受賞いたしました。それだけでなく1チームは7年振りに中国地区大会で優勝を飾り全国大会への切符を手に入れ、非常に誇らしく思います。



ロボコン中国地区大会後に校内で行われた受賞報告会にて

ロボコン中国地区大会を振り返って

最優秀賞（全国大会出場）

4D 山根 吉裕

私は、今年初めて高専ロボコンに挑戦し米子高専Cチームのリーダーという大任を任されました。今年のロボコンは「だれかをハッピーにするロボットを作ってキラリ輝くパフォーマンスを自慢しちゃおうコンテスト」というテーマで、今までと全く違った形式のオンラインロボコンです。そこで、私たちのチームは、ロボコン史上最多100台のロボットを作製し、観ている人たちが幸せな気持ちになっていたようなパフォーマンスを目指しました。様々な困難を乗り越え、中国地区大会では、ロボットによるコンサートという独創性が評価され最優秀賞を受賞することができました。全国大会には、よりパフォーマンスに磨きをかけて臨みたいと思います。そして、応援して下さいました方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。これからもご声援よろしくお願い致します。



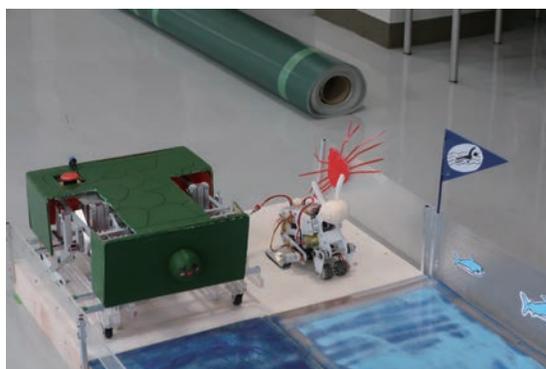
最優秀賞受賞ロボット

高専ロボコン2020 中国地区大会を終えて

特別賞（マブチモーター株式会社）

4M 長島 陸

私たちM科ロボコンチームは兎と亀がトライアスロンで競走する事で見ている人をハッピーにするロボットを製作しました。今年は新型コロナウイルスの影響で、ルール発表が例年より遅かったため製作期間も短く、活動ができない日もあり、ロボット製作は大変でした。そして、高専ロボコンとして初めてのオンライン開催となったため、勝手が分からず心配事が多くありました。大会本番では、ロボットがうまく動かさず悔しい思いをしましたが、テーマへのチャレンジ精神が評価され、特別賞を受賞しました。私たちの努力を評価され、とても嬉しく思います。今回の学んだことを糧に全国大会で優勝できるロボットを製作していきます。最後にロボコンに協力して頂いた方々や応援して頂いた方々に深く感謝いたします。今後も応援よろしくお願い致します。



亀ロボットと兎ロボット

2D 景山 蓮

私たち電子制御工学科チームは、今年中止になったお祭りの再現と書道パフォーマンスを組み合わせた作品でハッピーになってもらおうと、書道ロボット4台、太鼓ロボット2台の計6台を制作しました。書道ロボットは、サーボモーターで関節を再現し人の腕を模して作り、納得のいく良い字を書けました。太鼓ロボットはリンク機構を使い、モーターの回転運動を往復運動に変換し力強い音を響かせることができました。結果は、総合4位で、人の腕を模した書道ロボットや、太鼓ロボットの可愛い兎の装飾が評価されデザイン賞を頂きましたが、全国大会の出場は叶いませんでした。例年に比べ開発条件の悪い中、満足のいくロボットを制作することができたのは、ご協力くださった関係者の方々、応援して頂いた皆様のお陰と思います。深くお礼を申し上げます。



大会後の集合写真

陸上競技部 3E 矢田ほのかさんが 2019 年度鳥取陸上競技協会優秀競技者賞を受賞しました

陸上競技部顧問 南 雅樹

新型コロナウイルス感染の影響から例年より2ヶ月遅れ開催の県選手権大会の会場で3E 矢田ほのかさんが2019年度鳥取陸上競技協会優秀競技者賞(鳥取県を代表し、全国大会8位までの入賞者が対象)を受賞しました。矢田さんは高専入学後、厳しい練習を重ね自己記録を1秒以上短縮する努力家です。



〔3E 矢田ほのか〕この度は、このような賞をいただくことができ大変嬉しく思います。私にとって、とても貴重な経験になりました。昨年の全国高専大会では優勝できなかったのですが、来年は優勝できるようにこれから

も練習を頑張っていこうと思います。顧問の先生、マネージャーさんなどいつもサポートをしてくださる皆様に感謝を申し上げます。



中央5レーンが矢田さん(ユニフォームに学校名あり)

空手道部 令和2年度鳥取県高等学校空手道新人戦大会 参加報告

2A 植村 洸祐



形競技演武

10月17日に鳥取県立武道館(鳥取県米子市)において、「空手道新人戦大会」がありました。結果は、男子個人形2位という結果でしたが、予選では実力が発揮出来ず、運で勝ち上がる形となりました。約1年ぶりの試合ということもあり、体が思うように動かなかったように感じました。

また、今回は2位という順位で、1位の選手に負けている状態なので、次の試合では1位になれるよう、基礎や体力を強化し、精進していきたいです。今の部活環境は、毎日個人練習をしている状態のため、部をまとめ、環境面から良くしていきたいと感じました。

高専祭を開催しました

学生会長 小田原 大輝

今年度は「AXION」というテーマに、高専生活において高専祭は不可欠であるという想いを込めて、学生会執行部で企画・準備を慎重に進めました。コロナウイルス感染対策として、例年盛り上がりを見せている屋台の出店を取りやめ、ロータリー・体育館で行う企画も密が避けられるようなものを考えました。

そのなかで、僕が1番の盛り上がりを見せたと感じた企画は、ハロウィンファッションショーです。どのクラスも仮装のクオリティーが非常に高く、ハイレベルなコンテストとなりました。さらに、この日は企画参加者のみならず、仮装をして1日を過ごす学生も多くみられ、特別な1日であるということを再認識できました。また、文化発表会や各種大会がなくなり悔しい思いをしている学生が多い中、各部活動の作品の展示や、パフォーマンスを行う機会を設けることができ、嬉しく思いました。厳しい条件下で例年とは大きく異なる内容となりましたが、学生みんなが主役となり、最高の高専祭を作り上げることができました。

最後に、たくさんの話し合いを重ね高専祭という日を準備してくださった先生方と学生会執行部、高専祭を楽しんでくれた学生のみんな、そしてご協力頂いたすべての方々に心よりお礼申し上げます。

高専祭実行委員長 本田 朔也

今年度の学生会一同が抱いていたのは「学生達の良い思い出となる高専祭にしたい」という思いです。例年なら5月から動き始めているはずの高専祭は、開催するかどうかの話し合いから始まりました。コロナ禍により登校再開さえも不透明な中、危険だ、怖い、やめよう、身の安全を案じた意見も多く上がります。それでも、登校もままならぬ今年の学校生活において、せめて何か一つ思い出に残るものを作りたい。そんな意見に乗せられて私たちは立ち上がりました。

資金難、短い準備期間、飲食禁止に規模縮小と重なる制限の中で、しょうもないものになってしまうのではないかと懸念や学生達のモチベーションが無くなることへの恐怖に襲われました。「本当に思い出に残せるか？」そんな疑問を抱えながらも、何度も話し合いを重ね、実現したのが、今年度の異例の形式となった高専祭なのです。

この高専祭期間中に私たちは多くの笑顔を見ることが出来ました。完璧ではありませんでしたが、予想以上の盛り上がりを見られ、多くの感謝の声を頂きました。それだけで、苦勞が報われたと感じます。私たちを信じて楽しんでくれて、本当にありがとうございました！



ハロウィンファッションショー



部活動の作品展示



学生会役員全員集合



高専祭の準備をする学生会役員

2年学年主任挨拶 2年学年主任 教養教育科 小林 玉青

「普通」の学校生活とともに、「いつもの」ちょっと面倒くさく感じるときもあるけれども、やってみたら実は楽しい学校行事も失われていました。対面授業が再開してからも、学生の間に諦めと物足りなさが漂っていることは感じていました。ここに至ってやっと、いつもと形は変わりましたが、2年生は地元企業さまを遠隔見学し、もしくは、ご担当者さまの来校によりご紹介頂き、自らの進路について考える機会を今年も持つことができました。続いて、高専祭企画を通じて、同級生と親睦を深めたりする姿を眺めることもできました。これらの行事を通じて、ニューノーマルも悪くないな、と教員側も教えられているところです。



遠隔オープンファクトリーの様子

2年生研修旅行について

キャリア支援室長 前原 勝樹

オープンファクトリーは、クラスの親睦を図ることに加え、キャリア教育の一環として、地域の産業と文化を知る校外見学旅行として実施しています。今年度は、準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらない状況にあることから、校内において、オンラインによる企業見学、来校による企業説明会、講演会を行いました。2年生の皆さんにとっては、地元企業を知る貴重な機会になったことと思います。学生の皆さんが、就職知識・経験を身につけ、将来に活かしてくれることを望みます。



オープンファクトリー オンライン見学、説明会、講演会の協力企業

M	菊水フォーミング、吉谷機械製作所、モリタ製作所
E	アクシス、リコーインダストリアルソリューションズ、リコーITソリューションズ
D	オネスト、出雲村田製作所、山陰酸素工業、八雲ソフトウェア
C	神鋼機器工業、アサヒメッキ、日立金属安来工場
A	米子市役所、井木組、井戸垣産業

機械工学科

オープンFACTORYで得たもの 権田 翼

私は、このオープンファクトリーを通して感じたことがあります。それは、私たちはまだまだ、機械についての知識や経験が足りないということです。2年間とはいえ、私は沢山の事を学んだと感じていました。ですが、実際に話を聞いてみると、知らない技術や単語など、私たちの分からない事がとても多かったです。私たちはまだまだ機械について未熟であると同時に、これからも沢山の事を学べると考えると、わくわくしました。今回は新型コロナウイルスの影響により、遠隔での実施で、実際に加工現場などを目にする事は出来ませんでしたが、とても良い経験になったと思います。今後の高専生活に活かしていきたいです。



株式会社 吉谷機械製作所 による消防車の展示・説明にて

高専祭の感想 石田 怜央

今年の高専祭は新型コロナウイルスの影響により、例年よりも規模を縮小して行われました。去年はクラスごとで何かをしたり、各部活動や寮で模擬店を出したりして外部から来た人と一緒に楽しんでいましたが、今年はこれらの事は行わず、学生会の皆さんがイベントを実行し、例年とは違った楽しい高専祭となりました。私は今回の高専祭でハロウィンファッションショーが一番盛り上がったと思います。三密を避けるためにリモートでイベントを視聴できるようにしていたところも、素晴らしかったと思います。来年は例年通りの高専祭を行うために、少しでも早くコロナウイルス終息に向かっていくことを願っています。



「魂の作品展」出品作品「砲火後ティータイム」(2M 遠藤 聖 作)

オープンファクトリーを通して得たこと

藤林 来輝

今年は遠隔による開催となり、当初は不安でしたが、遠隔でも企業の雰囲気や大体つかむことができました。卒業生の話を聴くことや、就職に関わる様々なデータを知ることができ、普段の授業では味わうことのできない貴重な時間を過ごすことができました。マナー体験講座では、名刺交換は第一印象を色づけることが理解でき、社会に出ても忘れないようにしていきたいと思いました。今後、高学年になると進路セミナーなどの就職・進学に関するイベントがあると知り、勉学や同好会活動などをより積極的に取り組む意欲が湧きました。



遠隔の企業説明、授業では聞けない体験談

一生の思い出に残るロボコンへの活動参加

和田 滯耶



ロボットの本体とハンドベルの製作

7月の終わり頃、ロボコンの大会が遠隔で行われることを知り、米子高専Cチームのメンバーとして参加することを決意しました。最初は不安なことや、私たちに何ができるのかわからないことも多くありました。しかし、優しい先輩方からCADの使い方やはんだ付けなどを教わり、とても勉強になりました。また、舞台の演出や衣装の作製など、様々なチームの裏方的な仕事を通じて、ロボコンの奥深さを理解することができました。結果として中国地区大会優勝を勝ち取ることができ、貴重な経験を得たことが私にとって大きな成果となりました。

オープンファクトリーについて

西本 琉汰

今年度のオープンファクトリーは例年とは違い遠隔や企業の方を学校に招いての開催となりました。そのため、実際にどのようなことをしているのかを自分の目で見ることはできませんでした。ですが、企業の方々の写真や資料を用いたわかりやすい説明により、それぞれの目的、理念、職場の雰囲気などをよく知ることができ、以前に比べて様々な企業に関心を持つようになりました。将来、どの企業に就職するかというのはとても大切なことだと思うので、就職先決めの際には、きちんと就職先のことを調べて理解した上で決めようと思います。



株式会社オネスト社長来校の様子

高専祭を終えて

松本 和真

今年は新型コロナウイルスの流行により、例年とは全く違う形式の高専祭が行われました。正直言うと、開催される前は、準備も少なかつたし、どういう感じで行われるのか想像が出来なくてあまり期待していませんでした。多分、自分と同じような気持ちだった人もたくさんいたと思います。でも、終わってみて自分は予想以上に楽しめました。本気で他の学年、学科と戦ったり、頑張る仲間を応援したり、新しい楽しみ方が出来たと思います。一方で、暇を持て余していた人達は、それぞれの過ごし方で時間を潰して心から楽しめなかったと思います。だから、来年からはまたみんなが積極的に参加できて、もっと盛り上がる高専祭になるといいなと思いました。



ハロウィンファッションショー

物質工学科

高専祭

篠田 和希

私は今年、クラスの高専祭実行委員を務めさせていただきました。やる気満々で夏の長期休暇の間にももう一人の実行委員と予算を練ったりしているほどでしたがコロナの影響で飲食系は禁止、クラスの企画はなくなってしまいました。それに伴い、実行委員の仕事の内容も思っていたものとは違うものになりました。いわゆる雑用、地味な仕事で、しかももう一人の実行委員が熱を出して一週間戦線離脱というハプニングに見舞われましたがなんとか当日を迎えました。思ったよりも学園祭っぽく、楽しむことができました。



高専祭でのフォトコンテストの写真

将来の選択増やす説明会

長濱小次郎



オープンファクトリー-日立金属の様子

2Cのオープンファクトリー説明会では神鋼機器工業株式会社さん、株式会社アサヒメッキさん、日立金属株式会社安来工場さんが説明に来てくださいました。まず最初に、神鋼では家庭用、工業用などで使用されるLPガスの容器などを製造しており、お客様が安心安全に使えるよう優れた技術と経験を用いているそうです。日頃お世話になっているので安心感がありました。次に、アサヒメッキでは化学を応用しステンレスに様々な色を発色するようにメッキを施すそうです。その技術は「オロル」といい海外で特許も取っておられるそうです。私達物質工学科で習う分析化学の応用が世界で通用するというのは素晴らしいことだと思いました。そして最後に、日立金属では航空機、自動車関連、医療関連など様々な分野の金属部品などを製造しているそうです。大企業で様々な部門もあり、自分のしてみたい仕事が見つかるかもしれないと思いました。

建築の仕事を知る

宮本 滯

今年度のオープンファクトリーは学校で行われました。実際に職場を訪れてみたかったという気持ちもありますが、私にとってこの企業説明会は建築の仕事の幅の広さや具体的な仕事内容などについて理解を深める機会となりました。

企業の方の実際の声を聞いて小さな仕事も大きな仕事もお客様や地域の方が喜ばれることがやりがいに繋がり、互いに幸せになる魅力的な仕事だと改めて感じました。この説明会で学んだことや実際に働いておられる卒業生の方のアドバイスを今後の勉強や進路選択に役立て、また、自分がどのように社会で役立てるかを考えていきたいです。



遠隔によるオープンファクトリーの様子

高専祭を終えて

高橋 叶羽

今年は感染症拡大防止のため、例年とは異なる高専祭の開催になりました。一般公開がないことや飲食出店がないことに不安がありましたが、いざ始まってみると、とても盛り上がりのあるものになりました。全員が行事に参加できるように企画され、個々の得意分野で楽しめたと思います。特にハロウィンファッションショーなどの投票が行われる企画はたくさんの作品を見ることができてとても面白かったです。来年もクラス対抗で作品を作る企画があればもっと楽しくなると思いました。厳しい状況の中でしたが、とても良い高専祭になりました。



スタンプラリーの景品

建築学科

特別行事(企業研修企画等)と高専祭(文化の部)を終えて

3年学年主任 機械工学科 権田 岳

3年生の秋の主な行事は、工場見学旅行(校外研修旅行)になります。工場見学旅行は、本校が以前より取り組んできた恒例行事であり、例年は1泊2日で京阪神および中国地方の企業見学となっていますが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、校外での研修旅行等は中止となり、校内での実施となりました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響に負けず、各学科が工夫を凝らし、県外企業によるバーチャル工場見学、企業技術者を招いた講演会、ワークショップ形式による企業研究など、校内実施ならではという企画が多数実施されました。本年度、新たな試みとなった各種企画は、熱心に取り組む学生も多く、参加した学生は有意義な特別行事を過ごせたように感じました。最後になりますが、ご多忙の中、今年度の特別行事の各種企画にご協力くださいました企業・団体の関係者の皆様にお礼を申し上げます。

一方、高専祭では、各クラスが計画していた模擬店などの企画は、こちらも新型コロナウイルス感染拡大の影響のため中止となりましたが、学生会役員、教職員をはじめとしたスタッフの尽力により多数の新企画が実施され、校内でのネット配信も活用することで、多くの学生が高専祭を楽しんでいました。



バーチャル工場見学(3M)



グループディスカッション(3E)

バーチャル工場見学に参加して

永井 遼

今年度は新型コロナウイルスの影響で、実際に工場には行かず、バーチャルで株式会社カネカの工場見学をしました。カネカのお話を聞いてなにより驚いたのは、その事業開発の幅広さでした。

兵庫県高砂市の高砂工業所では、広い敷地面積の中に化学、医療、化粧品、さらには食料品に関する開発まで行っており、特に化学製品の開発に関しては環境面の事も考慮した開発をしており、先を見据えた事業展開をされているのだと思いました。他にも米子高専を卒業されたOBの方の話聞き、技術者に必要なのは、画期的なアイデアや新しい製品を次々と生み出すことではなく、基本的な事をしっかりと続けることだと教わり、自分の将来になりたい技術者像の参考になりました。今回の工場見学は自分にとって、とても意義のあるものになりました。



バーチャル工場見学

高専祭を終えて

加藤 大晴

今年度の高専祭は、新型コロナウイルスの影響で例年通りには行えませんでした。そのため、クラス全員で参加する企画へと変更になりました。企画のほとんどは、体育館で行われていましたが、密集防止のために入場制限がありました。学生会がTeamsで企画の配信をしていたため、入場しなくても観戦することはできましたが、大勢で盛り上がるようなことはできず残念ではありました。それでも、クラスの多くの人が参加している企画の観戦や応援に行き一緒に楽しめました。コロナ禍の厳しい状況の中、高専祭を企画していただいた学生会の皆さんに感謝したいです。



高専祭でのひとコマ

特別行事を終えて

浅井 優樹

今回は中国電力、マイナビの方々に来校していただき講演を聞きました。中国電力では私たちが常に使用している電気の発電や送電をしていることや地域と密着することの重要性を聞きました。また、本校を卒業し中国電力に勤めている先輩の話聞き、自分の将来に向けて、今すべきことが少し見えてきました。

マイナビでは就職をする時に何をすればいいのか聞きました。また、新入社員の約3割は勤めている会社の環境が悪いなどの理由で辞めてしまう人がいることを聞いて驚きました。全体を通して、具体的な将来を見据えて行動していきたいと思いました。



企業で活躍中の先輩

特別行事でのお話を聞いて

川崎 太楼



グループワークの様子

私は特別行事で中国電力のお話を聞いて、私が就職した時にどんなことをするのか、高専生は就職した時、大学生とどこが違うか、また職場の雰囲気などが分かり、将来のイメージを少しずつつかむことができました。

マイナビのお話では、私が向いている職業をアンケートで診断してもらえてとても参考になりました。社会には様々な職業があるんだと感じることができました。

今回のお話は将来を考える上でとても良い影響を与えてくれると思います。今年は残念ながら直接企業を見に行くことができませんでしたが、参考になる話が聞けて良かったです。

有意義な特別行事

吉岡 玲志

3Dは1日目に工場見学を、2日目にグループワークをしました。工場見学では島根富士通というノートパソコン・タブレットの基盤を製造し組み立てる会社の工場内の映像を見ながら工場内の管理体制を知り、効率よく良い製品を製造する方法を学びました。1番印象に残っているのは人が得意なことと機械が得意なことを研究し区別して、効率良く製品の製造組み立てを計画していたことです。これから開発や自動化が進んで行われる中でとても大事なことだと思いました。グループワークでは、班に分かれて仕事とは何か、大人とは何かなどのテーマについて話し合い、最後には各班でオリジナルテーマについて考え、出た意見をまとめました。



工場見学でのグループワークの様子

高専祭の感想

野間 めい

私は30秒CMに参加しました。東進ハイスクールのパロディーを作ったのですが準備期間が短く先生との予定を合わせるのが大変でした。私は今までD科の先生はノリが悪いと思っていましたが研究室に頼みに行ったら高専祭マジックで何人か引き受けてくれました。しかも想像以上にやる気がありました。D科の先生は学生思いのノリがいい先生ばかりです。今年の高専祭は学生会がいつも以上に大変だったと思います。コロナで無くなるかと思っていた高専祭をいろんな対策で楽しくしてくれてありがとうございました。(^^)/♡



高専祭の一コマ

WEB 工場見学の感想

山瀬 優日

ENEOSは、石油会社のイメージが強かったのですが、ガスや電気も扱っていて幅広いと思いました。いろいろぶっちゃけた話もしていただいてとても面白かったです。2時間という長い見学時間でしたが、短く感じました。

三菱ケミカルは、自動車のイメージだったのですが、化学も関係していると知って驚きました。また、壁紙やおむつまでつくっていて、より驚きました。

日清オイリオグループは、油をつくる工程をととても丁寧に説明してくださって分かりやすかったです。私は油をつくるのはそんなに面倒くさくないと思っていましたが、一度できあがっても食用に適さないものを取り除く必要があるから大変だと思いました。

【日程・見学先】

- ① 10月15日 午前
ENEOS（水島製油所）
- ② 10月15日 午後
三菱ケミカル（岡山事業所）
- ③ 10月16日 午後
日清オイリオグループ（水島工場）

WEB 工場見学の感想

バトバヤル アルタンナヴチ
(アルター)

今回の工場見学を通じて、日本の大企業についてさまざまなことを知り、就職のことについてもたくさん学ぶことができ、うれしく思っています。その会社の人たちに私が実際に質問するチャンスがあったこともとてもうれしかったです。

どの会社も環境にやさしい製品をつくっていることを知ってとても感動しました。私も将来、このような環境にやさしくて人々のニーズに合わせた製品をつくらなければならないという気持ちになりました。

オンラインではなく実際に会社に行けていたら、より楽しめたかもしれません。しかし、私にとっては十分に知識を得ることができました。

ENEOS 常圧蒸留装置
出典：ENEOS(株)水島製油所ホームページ

新たな発見の輝き

平野智吏子

「互いの意見を深め合い新たな出会いへ」

今年の特別行事は、班に分かれたキャリア関連ワークショップで「仕事」や「働くこと」について意見交換をしたり、2年生と一緒に米子市役所の方からお話を聞かせて頂いたり、4年生のインターン報告会に参加させて頂いたり、とても充実した2日間となりました。皆互いに意見を交し深め合うことで、自身では思いつきもしなかった意見に出会い、実際私自身2日間沢山の意見に出会えたことで視野が広がり、将来について考える良いきっかけにもなりました。



ワークショップの様子

ひとつひとつの積み重ね

西川 和樹



3Aの集合写真

「一人では何も出来ぬ。だが、まず誰かが始めなければならぬ。」*¹

今年は3A一人ひとりがその誰かとなり、お互いに声を掛け合い、各企画チームの垣根を超え、クラス一体となって取り組めた高専祭でした。総合優勝という結果を掴んだのも、クラス全員で楽しめたこと、全企画に熱心に取り組む、力いっぱい努力をし、それらのひとつひとつの積み重ねが実った結果だと思います。皆と協力することで成し遂げられること、互いを思い、高め合うことの大切さを学べた充実した2日間になりました。

*¹「 」の言葉は、岸田國士（劇作家）の引用

令和2年度のインターンシップについて

4年学年主任・物質工学科 田中 晋

本校では、夏季休業期間中に本科4年生と専攻科1年生がインターンシップに参加をしていますが、今年度は7月以降の新型コロナ感染拡大の影響を受け、例年とは状況が大きく異なりました。

インターンシップ受入可能のご回答を350件以上の企業・団体からいただきましたが、この件数は昨年度よりも100件程度少なく、さらに、7月以降の感染拡大を受けて、これらの受入の多くも中止、もしくはオンライン開催へ変更されました。実施日数が減ったものもあります。大学からは、当初から受入不可のご回答をいただくことが多く、大学への編入学を目指す学生にとっては、進学先の様子を知る機会が得られなかったことが残念です。

本校ではインターンシップを中止とはせず、新型コロナ感染防止への対応を踏まえた上で個々の学生および保護者の方に参加、不参加を熟考いただきました。県外企業へ赴いての実習では、各自で感染予防策を講じて参加してもらい、感染者もなく無事終了することができました。一方、オンラインとなった実習では、企業で働く実感がつかめない部分もあったようですが、コロナ禍において希望する企業、職種の様子を垣間見ることができたことは幸いでした。また、現場での実習が実施された地元企業には、例年よりも多くの学生が参加し、地元企業を深く知ってもらうことができました。

今回は特に、4月の休校措置の影響で夏季休業期間が短くなったため、企業の方にはお盆直後の3週間という限られた期間内に実習日を設定していただきました。ご協力くださった企業、団体の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



インターンシップに参加して

長島 陸

私は8月24日から5日間、ミネベアミツミ株式会社米子工場のインターンシップに参加させていただきました。実習では、米子工場で作成しているモータの説明を聞いたり実際にモータを製作したりしました。働くことの大変さや情報共有の重要性を知ることができました。

今回のインターンシップを通じて、学校で学んだことは必ずどこかで生かせることがわかりました。そのため今後の学校生活では機械設計や加工の分野だけでなく、機械に関連する周囲の知識についても興味を持って学びたいと思いました。



工場の外観

米子瓦斯のインターンシップを通して

高橋 涼平



実習での作業の様子

私は、8月24日から5日間、米子瓦斯株式会社のインターンシップに参加させていただきました。実習では、米子市の各地にあるガス測定器の点検作業を行いました。日々の点検により、私たちが安全にガスを利用できることを知ることができました。また、会社見学では、ガス供給施設を見学しました。施設では圧力差を利用してガスの供給が行われており、初めて知ることも多くありました。今回のインターンシップを通して点検作業など機械に関わりのある仕事を具体的に知ることができました。

インターンシップに参加して

小西 伶旺

僕は、滋賀県南草津にあるパナソニックアプライアンス社でのインターンシップに参加しました。機械系の金型開発課という部署での仕事を体験し、実際に自分のイニシャルを彫った金型から名刺ケースを作製しました。一番印象に残っているのは、指導してくださった技術者の皆さんが口をそろえて「自分の仕事に没頭できる、楽しい。」と言われていたことです。自分の仕事に誇りと愛着を持ち、製品に触れる全ての人のことを思いやっ作っているように感じました。自分もこれからの生活でさらなるスキルを身に付けられるよう学生生活を過ごしたいと思っています。



金型を磨いている様子(奥)

インターンシップ報告

草刈 美帆



配管を観察する様子

私は8月31日から9月4日までの5日間、ENEOS株式会社水島製油所で行われたインターンシップに参加しました。製油所内はいくつかのグループに分かれており、私の配属された計装保全グループは、装置の神経・脳役を担う既計装設備の信頼性を高く維持しておられました。実際の装置見学や体験を通して、生活に必要な石油由来するエネルギー・資源・素材を安定的に供給するための取組を実感することができました。「人々の生活を持続的かつ安定的にサポートをする職」を体験し、就職先を考える上での視野が広がったとても貴重な5日間を過ごすことができました。

インターンシップに参加して

権代 大翔

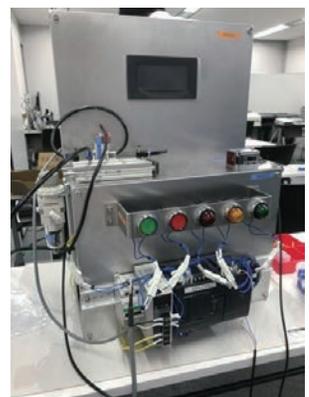
私はソフトウェア開発に興味があったため、システム運営管理やソフトウェア開発など幅広い事業を展開している株式会社インフォメーション・ディベロップメント山陰事業部のインターンシップに参加させていただきました。実習内容はWebアプリの作成、先端技術部の方とオンライン通話での交流会、社員座談会などを行い、新しいものの考え方、開発環境の雰囲気を感じ取ることができました。特に社員座談会ではどのような判断基準で会社を選んだかを聞く機会があり、今後の進路を決める上で視野を広める良い経験をさせていただきました。これからの自分に必要な知識、技術を見直すことができ、とても有意義な5日間でした。



インターンシップの所感

上山 勝也

私は8月17日から8月21日までの5日間、株式会社マイスターエンジニアリング大阪本社のインターンシップに参加させていただきました。実習では、シーケンス制御実習とArduinoを用いた自由課題に取り組みました。この実習内容は、学校の実験実習でも行っていたため、そこで得た知識を生かすことができました。社員の方には実習について丁寧に教えていただき、わからないところは素直に聞くことが大切だと学びました。例年とは異なり、期間や規模が縮小された内容のインターンシップでしたが、実際に現場で働いているエンジニアの方の話や実習を通して、会社の詳細やエンジニアという仕事について知ることができました。今後の学生生活で自分の就きたい分野を見つけようと思いました。



組み立てた制御盤

物質工学科

水島製油所のインターンシップに参加して 栗本 瑞希

私は8月31日から9月4日までの5日間、国内最大級の処理能力をもつENEOS株式会社水島製油所のインターンシップに参加しました。実習では、様々な施設の見学や現場の立ち合いなどをさせていただきました。工事の予定や進捗管理、過去の事故事例を共有することが安全かつ効率的な運転につながっているのだと感じました。

インターンシップを通して安全確認やコミュニケーション、意見交換、多くの関係者の大切さについて学びました。職場の雰囲気や働くというイメージを掴む良い経験になりました。これを今後の就職活動にも生かしていきたいです。



工事現場の立ち合いの様子

インターンシップを通して 林原 栞奈



太陽ファルマテック高槻工場外観

私は固形製剤と注射剤の受託製造を行う、太陽ファルマテック株式会社高槻工場のインターンシップに参加しました。

5日間の実習で、製造現場の雰囲気を体感し、医薬品製造について理解を深めることができました。また、どこの部署であっても従業員一人一人が医薬品製造の業務に対する誇りや製品の品質を保证する責任感を持っており、これらはどの部署にも共通するものであり、働く上で大切なことであると体感しました。

今回のインターンシップを通して得たものを今後の学校生活や就職活動に十分に活かしていきたいと思っています。

建築学科

インターンシップを通して 佐藤 儀一

私は松江土建株式会社のインターンシップに参加させていただきました。地元の企業であり多くの建築を手がける松江土建株式会社で施工管理の業務内容や現場の雰囲気、1日の流れを理解する事を目標に実習を行いました。実習では企業説明やドローン飛行体験、実際の現場での打ち合わせなどの立ち合い、測量機器の据付け体験、基礎コンクリートの数量計算など様々な事を体験させていただきました。その中でコミュニケーション能力や工程の理解など実際に働くとなると自分に足りない事を発見することができたので今後の就職活動に活かしたいと思っています。



測量機据え付けの様子

地元就職を考えて 門永 星那

私は将来地元で就職することを考えています。そのため、鳥取県内の企業で分野が違う2社のインターンシップへ参加しました。私がインターンシップに参加した企業は株式会社懸樋工務店と株式会社ミヨシ産業です。株式会社懸樋工務店では施工管理業務を、株式会社ミヨシ産業では住宅設計に関わる業務を体験させていただきました。2社それぞれ分野は違いますが、実習を通して業務内容ややりがいを理解することができました。また、地元で働くということは地元をより良くすることに繋がると思いました。今回のインターンシップで得たことを今後活かしていきます。



住宅の間取り作成作業

国立台湾中興大学との研究が学術雑誌に受理されました

物質工学科 榎間 由幸

米子高専は、2018年より協定締結をしている国立台湾中興大学で、毎年9月に短期の研究室留学を実施しています。台湾中興大学理学部化学科 Ping-Shan Lai 教授のグループと本校物質工学科 榎間准教授らの共同研究がこの度、*Bull. Chem. Soc. Jpn.* **2020**, *93*, 978-984. に受理されました。本成果は日本時間2020年8月4日から公開になっています。内容は、これまで取り組んできたガン細胞を死滅させるために研究を行ってきた光増感剤の分子設計に関する総説になっています。なお本論文はインサイドカバーに選ばれました。



Prof. Laiとの記念写真



Lai研究室のポストクラと夜市にて

電子制御工学科棟改修工事について

電子制御工学科 学科長 中山 繁生

只今電子制御工学科棟では、昭和63年の竣工以来となる大規模な改修工事を進めております。今回の工事では、来年度からの学科再編に伴うカリキュラムに対応させるための教室を新設します。その中には、PBL（問題解決型学習）に関する授業を円滑に実施するための、アクティブラーニングが可能な大型教室が含まれます。さらに自習やグループ学習が可能な「ラーニングコモンズ」を新設し、新たな電子制御工学科棟内には、これまでは無かった学びの空間を展開させます。

電子制御工学科の研究室と実験室も新たに生まれ変わりますので、ここではその一部を紹介します。これからの電子制御工学科と、学科再編後の「情報システムコース」での充実した情報教育の実践を見据えて、棟内には「情報システム端末室」を2室ほど設けます。また新設する大型実験室「アクティブラボラトリー」ではAIやIoT、ロボットに関連した実験実習を充実させる計画です。さらにロボコンや卒業研究で製作したロボットなどは、「クリエイティブルーム」で試運転を行うことができます。この他にも多機能な実験室がありますので、新たな教育・研究環境にご期待ください。

最後になりますが、今回の工事では多くの学生と教職員の皆さんにご迷惑をお掛けしております。来年の春の竣工まで、もうしばらくの間お待ちください。宜しくお願い致します。



かつての建物内部の様子

卒業生は今 vol.23



稲田 達憲

2010年3月 電気情報工学科 卒業

2012年3月 専攻科 生産システム工学専攻 修了

同年4月 富士電機株式会社 入社

Q. 現在の業務内容

- A. 私が働く富士電機は大手の重電メーカーで従業員は約3万人。電力会社向け電気機器から自動車向けの半導体、コンビニ向けコーヒーマシン製造などの様々な製品を通じて社会へ貢献しています。私は製品やサービスでお客様と深い関わりを持つCE（カスタマーエンジニア）部に所属し、その中で「お客様の困りごとを技術で解決する」エンジニアリングを主業務としています。製品の中には一からお客様と設計する物があります。私の役割の一つは自分の知識・経験・能力を生かしてお客様の要望を100%製品に昇華させることです。日々新しい要望がある中で、試行錯誤して製品を完成させ、動き出したときお客様から感謝されることは、格別で喜びと励みになります。

Q. 今の会社を選んだ理由

- A. 今の会社を選んだのは“設計職”に憧れを抱いて、E科の先輩が同じ会社の設計職に就いていたからです。入社したら設計ができればと考え選びました。ですが就職から今まで設計職にはなりません。理由は単純で、設計より面白い仕事があったからです。入社直後は、全国・世界各国で製品試験職として製品に向き合い、5年経った時には経験を買われて、中国地方でサービスエンジニアとして活躍しました。今はこれまでの経験を生かしてエンジニアリング業務に携わり、とてもやりがいを感じています。

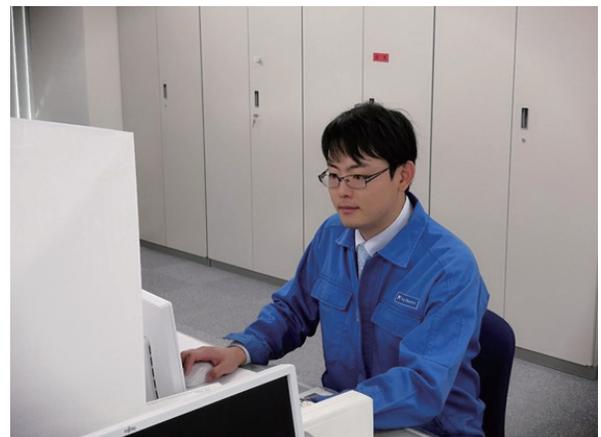
学生の頃想像していた仕事をしていませんが、私の知見を広げて頂いた会社に感謝をしています。

Q. 高専時代の勉強は無駄じゃない

- A. 私が社会人になって9年が経ちますが、今思うのは高専に通う皆さんは、他の高校・大学生とは決定的に違うということです。世の中は人手不足で、即戦力が求められています。大学生はまともな専門知識を習得せず社会人になり、苦勞する人もたくさんいます。でも、高専生の皆さんは若い時から真面目に専門知識を勉強しています。皆さんが今学んでいる専門授業の知識は将来仕事において確実に使います。この勉強が何の役に立つのかなあと考えませんか？ $\sin \theta - \cos \theta$ はとても使います。オームの法則は日常的に、サンプリング周波数はあって困らない身近なツールです。今頑張ってる勉強しているのは卒業のためではありません。蓄積した知識や技術力は今後の長い人生の中で自身を助け、少しでも困らないようにし、役立てるためです。ぜひ自分の専門性をもっと高めてください。

Q. 社会に出て何をしたいのか

- A. コロナ禍で世の中は混乱していて、少子高齢化社会の中で若い人への責任は重くなる一方。苦境に立たされる時代で皆さんは何をしたいですか。一人ひとりが「やりたいこと」「楽しみたいこと」を持っていても、思い通りにならないのが大半な世の中です。そんな中で自分の“芯”となるものを高専時代に見つけることができれば、社会に出ても折れずに負けることのない一人になれるでしょう。ぜひ考えてみてください。今という時間は本当に貴重です。友人・先生・学校を大切にこれからの学生生活を謳歌してください。



設計作業中

※記事において、学科等の名称をアルファベットで表記している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…教養教育科、S…専攻科
例えば、「1M」は機械工学科1年生を表しています。

発行：米子高専広報室 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL: 0859-24-5000 FAX: 0859-24-5009
ホームページ：https://www.yonago-k.ac.jp/ 印刷：株式会社東京印刷